

安息日の主、キリスト

ルカによる福音書6章1-11節

2011、5、8 HKJCF

I概要

- 1、安息日の主、キリスト 1-5
- 2、安息日と人間の解放 6-10
- 3、宗教専門家の反発 11

II安息日の主、キリスト

- 1、安息日の意味 出エジプト20：8-11
- 2、安息日厳守と禁止令（伝統的解釈）
- 3、禁止令とダビデの例
Iサムエル21：1-6
- 4、安息日の回復 ホセア6:6
- 5、安息日の主、キリスト
マルコ2：27-28

III安息日と人間の解放

- 1、安息日の意味の回復：①奴隷（於 エジプト奴隷）→自由（救い=解放）の喜び
②礼拝の自由と人間の解放と自立
- 2、安息日の目的の回復：神様と隣人への愛
- 3、イエス様の憤り（マルコ3：5、2：27-28）：人間が支配され、抑圧されること：聖書の無視・誤用

IV宗教専門家の反発

- 1、宗教専門家の目的（7）：イエス様を宗教裁判の被告に
- 2、聖書の実践の罫（ジレンマ）とキリストの教え
 - ①律法主義：人間の行為←→福音：赦し、聖霊
 - ②禁止令：目的の喪失←→解放：目的の回復
 - ③聖書解釈権：宗教専門家←→キリストの聖霊

V適用

- 1、私たちの信仰と生活が一致するために、救いも生活もキリストが主である必要があります
- 2、そのためには断片的で、自分流の聖書の読み方から、キリスト中心の読み方に変わる必要があります
聖書は「キリスト中心の解釈」が重要です
- 3、私たちが主のために働くというより、①主の愛で生かされていること②何もしなくても、存在が喜ばれていること③私の遣わされている生活の場にイエス様がおられたらどう行動されたかを知ることが重要です